令和六年度　全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会　奨励賞

「節水によってつなぐ水」

新居浜市立中萩中学校　三年　日野（ひの）　結里愛（ゆりあ）

「あなたにとって水とは？」そう問いかけられたとき、あなたはどう答える？

私にとって水とは、初めは、「生きていく上で必要不可欠なもの」だった。

しかし今はそれに加えて、「私達人間の手で守りつないでいかなければならないもの」となった。

まず、水について考えるのであれば、日本国内だけでなく世界にも目を向けてみることが必要だ。例を挙げるとするならば、アフリカの子供達と水には、水の問題を語る上で欠かせないというほど深い関係がある。その関係とは、アフリカの子供達が、いまだに安全な水を使えない環境下に置かれていることだ。

安全な水を使えないことが子供達に与える影響は計り知れない。実際にアフリカでは、毎日八百人以上の乳幼児が、汚れた水が原因で亡くなっている。なぜこんなことがアフリカで当たり前のように起こっているのか。原因として水道施設などインフラが整備されていないことがあげられる。今の日本に生きる私にはとうてい想像できないことだ。日本では、蛇口のハンドルをひねるだけで水を得ることができる。それが、私にとっての「当たり前」だが、アフリカの子供達は違う。水道施設がないアフリカでは、水を確保するために何時間もかけて水汲み場と家とを往復するのが「当たり前」なのだ。そして、その担い手の多くが子供であるということを知ったとき、驚きとともにどうしようもない感情が私を襲った。自分と同じくらい、ましてやそれ以上に小さな子供が、水汲みによって自分の時間を確保できていないことに、やるせなさを感じた。水を使うのにかかる負担、労力にここまでの差

があるとは、思わなかった。

アフリカの水問題の現状を知った私は、水問題解決に向けて、私なりに行動していきたいと思った。水問題に対してできることとして、一番取り組みやすいのは、節水だ。水を出しっぱなしにしないことは、意識するだけでできる、最も効果的な方法である。水を自由に使うことのできる日本で生きる私達は、水の貴重さ、ありがたさを、忘れてしまっているのではないか。だからこそ、一度世界に目を向けてみて、水が使えるこの日常が、当たり前ではないのだと気づいてほしい。そして、まずは自国の無駄な水の消費を減らすことが、今のまだ中学生の私にもできることなんだと思った。有限な資源である水を、節水によって少しでも未来へつなげていきたい。